

果樹病虫害発生予察調査結果（5／10調査分）
（三条、加茂、田上地域）

5月10日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（モ モ）

調査地点ごとに結果枝150本、5新梢、100花を調査した結果、すべての調査地点で**せん孔細菌病**の春型枝病斑（スプリングキャンカー）が確認されました。り病葉やり病枝は確認次第、園外へ搬出し処分してください。

対策が遅れると、今後の風雨により感染が拡大しやすくなりますので、予防防除の徹底をお願いします。開花初期から袋かけ前までが重点防除期で、一度発生すると進行を食い止めることが困難になります。袋かけを早期に実施することも耕種的防除として有効です。

また、**モモハモグリガ**もトラップ調査で誘殺され始めました。被害の発生に注意し、防除時期の遅れが無いよう園地の確認をお願いします。

※ウメシロカイガラムシのふ化時期について

有効積算温度によるふ化盛期予想では、**ウメシロカイガラムシ**は**5月12日頃がふ化盛期**となります。園地条件や今後の気象条件によってふ化盛期が前後することも想定されますので、各自園地を確認のうえ対応してください。

（ナ シ）

調査地点ごとに200花葉そう、5新梢、100果を調査した結果、**黒星病**が多発生している園地が確認されました。幼果でも発病が確認されていますので、今後の降雨等によっては急激に感染拡大すると考えられます、り病葉やり病果は確認次第、園外へ搬出し処分するとともに、徹底した予防防除に努めてください（この時期での防除が最も重要になると考えられます）。

また、現在葉に見られる黒点症状は大部分が雑菌によるものと考えられますが、一部で**セイヨウナシ褐色斑点病**の発病葉も確認されました。5月は重要防

除時期となりますので、予防防除の徹底を図るとともに、り病葉は確認次第、園外へ搬出し処分してください。

新梢が黒く枯れる花腐れ細菌病も一部園地で確認されました。り病葉やり病枝は確認次第、園外へ搬出し処分してください。

本日の調査ではニセナシサビダニの被害は少なかったものの、今後高温乾燥が続くとハダニ類を含め発生が増加すると予想されます。いずれのダニ類も早めの薬剤防除対応が効果的です。

(モモ・ナシ共通)

ナシヒメシンクイは、第1世代幼虫の防除時期が5月初～上旬なので、前年度被害の多かった園地やモモ園では、引き続き丁寧に散布しましょう。

なお、これに関連した病虫害や生育の情報等については、農業普及指導センターよりJAを通じて送付される予定です。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020